

ご先祖様から私たちへの贈りもの

自然災害伝承碑の事例

(第六版)

京都府域

令和8年(2026)2月27日

辻 謙一 (現地撮影・調査)

- 文章は一部、国土地理院地図等から引用
- 本資料は研究用として整理したものである
- 標題における「○」は国土地理院地形図に掲載済箇所「●」は未掲載箇所
- 自然災害伝承碑に準ずる災害の痕跡も掲載している
- ※赤色箇所は今回追加、下線箇所は第五版にて追加

淀川水害(明治18年) 1箇所(以下同)

- 京都市伏見区 水垂墓地

丹後大震災 39+1=40

- 京丹後市網野町 郷村断層 (下線表示は、第四編の追加箇所 以下同)

- 京丹後市峰山町 峰山小学校

- 京丹後市峰山町 丹後震災記念館

- 京丹後市網野町 心月寺

- 京丹後市網野町 消防署網野分署北

- 京丹後市網野町 松泉寺

- 京丹後市網野町 青原寺

- 京丹後市網野町 明光寺

- 京丹後市網野町 島津

- 京丹後市網野町 蓮華寺

- 京丹後市弥栄町 長命寺

- 京丹後市網野町 府道沿

- 京丹後市峰山町 相光寺

- 京丹後市峰山町 金峰神社参道横

- 京丹後市峰山町 増長院

- 京丹後市峰山町 十方院

- 京丹後市峰山町 常敢寺

- 京丹後市峰山町 八幡神社

- 京丹後市大宮町 三要寺

- 京丹後市大宮町 毘沙門堂

- 京丹後市大宮町 常德寺

- 与謝野町岩滝町 板列神社

- 京丹後市大宮町 溜池耕地復旧記念

- 京丹後市弥栄町 西方寺

- 京丹後市網野町 網野神社

- 与謝野町野田川町 下山田

- 与謝野町野田川町 市場小学校

- 与謝野町野田川町 阿知江磯部神社
- 与謝野町加悦町 美容院
- 与謝野町野田川町 三つ葉グラウンド

- 与謝野町野田川町 梅林寺
- 与謝野町加悦町 西新様
- 与謝野町加悦町 加悦中学校東
- 与謝野町加悦町 旧加悦町役場庁舎
- 与謝野町加悦町 加悦鉄道

- 与謝野町岩滝町 板列（いたなみ）神社
- 与謝野町岩滝町 男山板列（いたなみ）八幡神社
- 与謝野町岩滝町 木積神社
- 与謝野町岩滝町 弓木墓地

○京丹後市久美浜町 北但地震含む

室戸台風(学校内) 8

- 京都市 東山区 京都女子大学構内
- 京都市 山科区 勸修小学校
- 京都市 伏見区 桃山高校
- 京都市 南区 大藪小学校
- 京都市 伏見区 向島小学校

- 京都市 右京区 西院小学校
- 京都市 左京区 養正小学校
- 京都市 伏見区 下鳥羽小学校

室戸台風(その他) 10+2=12

- 京都市 東山区 知恩院南
- 京都市 右京区 高山寺
- 京都市 東山区 大谷本廟
- 京都市 上京区 妙蓮寺
- 八幡市 善法律寺

- 京都市 東山区 大谷本廟二天門
- 京都市 伏見区 向島西堤共同墓地

- 京都市 上京区 西陣小学校（廃校）
- 福知山市 雲原 雲原砂防
- 京都市 南区 鳥羽地藏

- 京都市 北区 府立植物園 室戸台風
- 京都市 東山区 日向大神宮 室戸台風

昭和 10 年水害 5

- 京都市 上京区 上立売通
- 京都市 北区 御園橋下流左岸の集落地
- 亀岡市 鶉ノ川左岸堤防 改良記念碑
- 京都市 東山区 三条大橋
- 京都市 下京区 松原橋

亀岡平和池水害 3

- 亀岡市 平和池ダム跡地
- 亀岡市 篠町柏原 年谷川堤防
- 亀岡市 矢田天満宮

昭和 28 年水害 21+2=23 ※同年の台風 13 号水害も含む

- 宇治田原町 郷之口
- 井手町 玉水駅構内
- 井手町 石垣区公民館
- 井手町 高神社
- 南山城村 北大河原

- 木津川市山城町 南綺田
- 木津川市山城町 北平尾
- 木津川市山城町 北河原
- 井手町 宮本水車舊址
- 和束町 大井手用水災害復旧

- 和束町 和束中学校門前
- 井手町 玉川 左馬
- 宇治市 西体育館
- 宇治市 南小倉小学校

●宇治市 槇島小学校

- 久御山町 大池神社
- 京都市 伏見区 巨椋池排水機場
- 久御山町 久御山排水機場
- 宇治市 巨椋池土地改良区事務所
- 京都市 伏見区 向島南小学校

●宇治市 天ヶ瀬ダム

- 久御山町 ゆうホール
- 宇治田原町 茶宗明神社

由良川水害 20+3=23 ※水系含む(昭和28年水害は内数)

- 福知山市 御霊公園
- 福知山市 大江町 河西体育館
- 福知山市 大江町 蓼原民家
- 福知山市 大江町 蓼原堤防
- 福知山市 大江町 道路嵩上記念

- 福知山市 大江町 頌徳碑
- 京丹波町 和知町 舟戸橋
- 南丹市美山町 大野ダム
- 綾部市 水の記憶の碑小公園
- 福知山市 福知山河川国道事務所隣接地

- 福知山市 由良川左岸堤防
- 福知山市 治水記念館
- 福知山市 法川排水機場
- 福知山市 堤防神社
- 綾部市 綾部用水堰

- 舞鶴市和江 瀬戸島開紀功碑
- 福知山市 一級河川土師川河川災害復旧助成事業完成記念碑
- 舞鶴市 国道175号
- 福知山市 大江町東
- 福知山市 雨過天晴

- 福知山市 足立音衛門 由良川洪水
- 福知山市大江町 蓼原(上流) 土砂災害
- 福知山市大江町 蓼原(下流) 土砂災害

火災 9+3=12

- 南丹市日吉町
- 京都市 上京区 清浄華院
- 京都市 上京区 円通寺
- 京都市 中京区 瑞泉寺
- 京都市 上京区 本隆寺

- 京都市 中京区 染殿院
- 京都市 中京区 妙泉寺
- 京都市 上京区 三會寺
- 宇治市 神女神社
- 京都市 中京区 宝蔵寺 火災

- 京都市 上京区 十念寺 火災
- 京都市 上京区 佛陀寺 火災

疫病 1

- 伊根町 丹後大仏 スペイン風邪

分類困難・その他 29+12=41

- 京丹後市丹後町 京丹後市立丹後古代の里資料館 穀榎の倒木 風害
- 宮津市 波せき地蔵堂 津波
- 南丹市 上桂川統合堰 水害
- 南丹市八木町 大堰橋上流右岸堤防 水害
- 亀岡市 亀岡駅南 水害標識塔 水害
- 亀岡市 東別院村 水害
- 京都市 下京区 明王院不動寺 水害
- 京都市 伏見区 羽束師神社境内 水害
- 京都市 南区 天神川(現西高瀬川)改修碑 水害
- 京都市 右京区 御室川治水碑 水害

- 京都市 西京区 大悲閣千光寺 大堰川開削工事での犠牲 水害

- 京都市 西京区 桂川左岸 水難
- 八幡市 八幡在応寺（三川合流背割り）伊勢湾台風最高水位記録標識 水害
- 八幡市 さくらであい館 倒木さくら加工ベンチ 風害
- 宇治市 巨椽土地改良区敷地内 水害

- 宇治市 塔の島 浮島十三重石塔 水害
- 城陽市 城陽排水機場内 水害
- 城陽市 奈島 淀姫さん 水害
- 久御山町 若宮八幡宮 水害
- 久御山町 室城神社① 水害

- 久御山町 室城神社② 風害
- 久御山町 大松寺 木津川決壊 水害
- 木津川市木津町 正覚寺境内 洪水供養阿弥陀石仏 水害
- 木津川市山城町 泉橋寺 水害
- 木津川市木津町 木津惣墓五輪塔 水害

- 木津川市木津町殿城所在地 関東丹後但馬大震大災死者大菩提 地震
- 亀岡市 七谷川砂防記念碑 土砂災害
- 京都市 伏見区 鴨川の鳥羽の大石 地震
- 京都市 東山区 仲源寺 分類困難・その他 水害
- 京都市 東山区 清水寺大日堂(宝性院境外塔頭真福寺) 東日本大震災

- 京都市 中京区 悲田院遺址 鴨川水害
- 木津川市 御霊神社 木津川大洪水
- 京都市 伏見区 城外之庭 慶長伏見地震
- 京都市 伏見区 太閤堤榎島堤址 宇治川水害
- 木津川市加茂町 常念寺 木津川大洪水

- 京都市 下京区、東山区 五条大橋 鴨川水害
- 南丹市八木町 昭和28年 大堰川水害
- 南丹市八木町 水天宮 水害
- 京都市 右京区 嵯峨用水 昭和26年水害
- 京都市 伏見区 御香宮鳥居 平成10年台風

- 京都市 伏見区 伏見港等 平成25年台風18号

計 146+23=169 箇所

番外（自然災害伝承碑ではないものの極めて教訓性が高いもの）

- 京丹波町和知町 セカンドベスト避難所 水害
- 福知山市大江町 蓼原災害駐車場 水害

○京丹後市久美浜町 北但地震含む



(碑文 要約)

大正14年(1925)5月23日午前11時14分、北但馬地震が発生した。旧久美浜町では住家の約9割が被害を受け、死傷者60名を出したが、幸いにも消防団の活動により火災は免れた。昭和2年(1927)3月7日の北丹後地震により、旧久美浜町では死者3名の被害が生じた。

●京都市 北区 府立植物園 室戸台風



(碑文 要約)

山城平野の原植生

(半木) 神社前の個体は昭和9年台風で倒伏、当初最初に復旧された当園最重要木の一つ

●京都市 東山区 日向大神宮 室戸台風



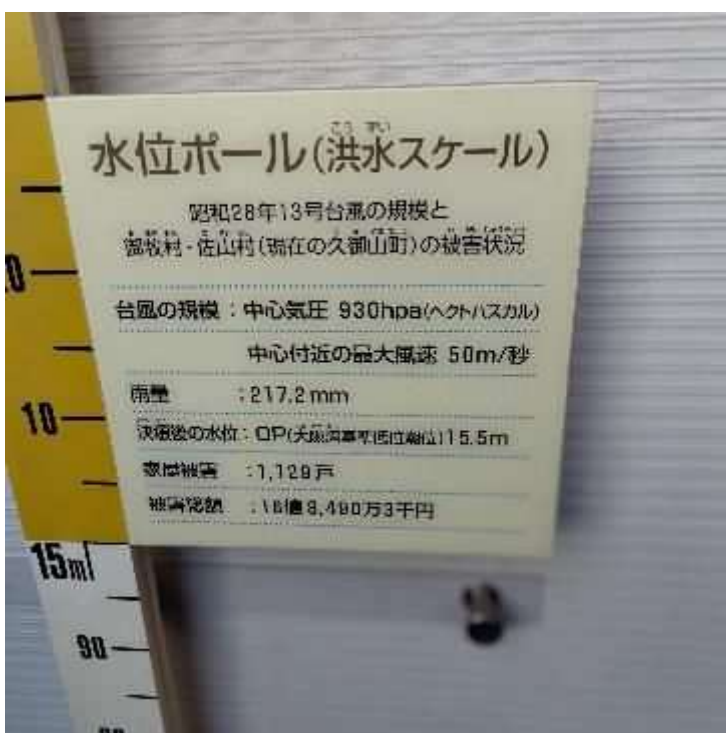
(碑文要約)

御神木(名木)

晴和天皇お手植えの神木と伝えられています。昭和九年の台風でいたみ翌年に枯損しました。

外宮内宮の周囲には樹齢二百年以上の松が数十本あり荘厳な森でありましたが、昭和九年の台風で全部倒れました。前にある株はその一つです。

●久御山町 ゆうホール 昭和 28 年南山城水害



(碑文 要約)

昭和 28 年 13 号台風の規模と御牧村・佐山村(現在の久御山町)の被害状況

台風の規模 中心気圧 930ha 中心付近の最大風速 50m/秒

雨量 217.2mm

決壊後の水位 OP(大阪湾最低潮位 15.5m)

OP は、大阪湾の海拔高度の基準となる高さ。OP=TP+1.30m

家屋被害 1129 戸

被害総額 16 億 8,480 万 3 千円

●宇治田原町 茶宗明神社 昭和28年南山城水害



(碑文 原文)

昭和二十八年八月山城一円の大水害の際当宮境内も大被害を受け之が復旧に多額の財源を要し当区民氏子のみにては全額完遂の域に達し得ず茲において全国著名茶業店舗並びに組合篤志家の浄財を乞い幸にして多数の絶大な御協賛を賜り玉垣屏と崩れ石積の建立等境内の整備を全うした

●福知山市 足立音衛門 由良川洪水



(碑文 背景)

福知山の歴史は水害との戦いの歴史でもあり、明治40年(1907)の大洪水の際、大規模な築堤工事が行われました。

この邸宅は、堤防の完成後、堤防の安全性を示す為にこの地を選んで建設されたと言われています。城下通り沿いに建つ住宅は、明治末期から大正初期にかけて建築。店舗として利用している主屋の他に、二階建ての洋館、茶室、御殿、撞球場など九棟が900坪の敷地内に立っています。

堤防沿いの高低差を巧みに利用して配置され景観をつくりあげる。和洋折衷のモダンなたたずまいは、西洋文化を取り入れたすばらしい建築美を今にのこしているとして、1997年に府指定の文化財となりました。

○福知山市大江町 蓼原(上流) 土砂災害



(碑文 原文)

土砂災害碑 2023年8月14日

この場所では、令和5年台風7号に接近に伴い、令和5年(2023年)8月14日の夜中から15日の朝方にかけて、突然降り出した豪雨に急襲され、大規模な土砂災害が発生しました。

蓼原は古来より由良川水運の湊町で水害、土砂災害の記録が多くありも「丑寅の風が吹くと荒れる」との言い伝えがあります。

明治40年には上流の村では山崩れで5人の尊い命が失われています。

災害から命を守るため、日頃から避難の備えと地域り絆を大切にしていくことを誓います。

この碑を訪れるすべての人に、災害の記憶と教訓を願って、石碑を建立しました。

令和7年8月10日

大江町蓼原自治会

福知山公立大学 地域防災研究センター

※当日の動画や災害記録を読み込めるQRコード付き

(大江町まちづくり住民協議会 HP から)

令和7年度・2025/08/13

蓼原災害石碑

【蓼原自治会提供】

蓼原に災害石碑が令和7年8月10日に建立されました。

2023年8月14日～15日に台風7号の先行降雨により大江地域全体に土砂災害が発生しました。土砂災害は歴史を振り返ると江戸時代初期より60年周期で発生しています。後世に災害の教訓を継承するために蓼原自治会で災害発生地に2基建立いたしました。



(両丹日々新聞 HP から)

京都府福知山市大江町蓼原自治会（仁張衛自治会長）は、2023年8月の台風7号による教訓を後世に残し、今後の防災に役立てようと、地区内に土砂災害碑を建立した。そばには福知山公立大学が作成した案内板も設置していて、記載する二次元コードから災害時の映像などが閲覧できる。

台風7号は同年8月14日夜から15日にかけて記録的な短時間豪雨をもたらし、市内各地で河川が土砂や流木で詰まり氾濫。市全域で全壊10棟、半壊2棟、準半壊6棟、床上・床下合わせて約100棟が浸水した。特に大江地域は被害が大きく、蓼原地区でも複数箇所で土砂崩れが発生。道路寸断や孤立世帯が生じた。仁張自治会長（69）は「台風7号はまさかの災害でした。これまで洪水被害の多い地域であったことから、川の様子ばかりを注視していたのですが、突然『後ろから』土砂が押し寄せて来たんです」と当時を振り返る。

こういった被害を後世にも伝え、防災への意識を高めてもらおうと、同自治会が公立大の協力も得て、土砂災害碑の建立を決めた。

作業は10日にあり、時折、強い雨が降る中、地元住民7人が土砂災害のあった地区内の道路沿いと蓼原公会堂そばに石碑を建てた。

仁張自治会長は「災害を知る人たちはいつかはいなくなる。自分たちの孫やひ孫に災害の教訓を残すことができれば」と期待を込めた。

○福知山市大江町 蓼原(下流) 土砂災害





↑ 自治会自ら施工の災害時の高台の避難用の駐車場

(碑文 原文)

土砂災害碑 2023年8月14日

この場所では、令和5年台風7号に接近に伴い、令和5年(2023年)8月14日の夜中から15日の朝方にかけて、突然降り出した豪雨に急襲され、大規模な土砂災害が発生しました。

蓼原は古来より由良川水運の湊町で水害、土砂災害の記録が多くありも「丑寅の風が吹くと荒れる」との言い伝えがあります。

明治40年には上流の村では山崩れで5人の尊い命が失われています。

災害から命を守るため、日頃から避難の備えと地域絆を大切にしていこうと誓います。

この碑を訪れるすべての人に、災害の記憶と教訓を願って、石碑を建立しました。

令和7年8月10日

大江町蓼原自治会

福知山公立大学 地域防災研究センター

※当日の動画や災害記録を読み込めるQRコード付き

●京都市 中京区 宝蔵寺 火災

宝蔵寺は、浄土宗西山深草派本山誓願寺に属する。本尊の阿彌陀如来立像は、元禄十三年（一七〇〇）の作。弘法大師空海の創立と伝えられ、文永六年（一二六九）、如輪上人により元西壬生郷に開基された。天正九年（一五八一）に玉阿律師によって中興再建された後、天正十九年（一五九一）に豊臣秀吉の寺町整備により、現在の裏寺町に移転した。天明八年（一七八八）「天明の大火」と元治元年（一八六四）「禁門の変」の際の火災により全焼。現在の本堂は昭和七年（一九三二）に建立された。江戸時代中期の画家・伊藤若冲（いとうわくまくら）の菩提寺で、若冲が建立した父母の墓石、末弟・宗寂の墓碑が残り、次弟・白歳の墓碑も建てられている。若冲は、当時の京都画壇を代表する画家であり、また生家のあった錦市場が営業停止になったとき、弟の白歳とともに、再開に向け力を尽くしたと伝わる。

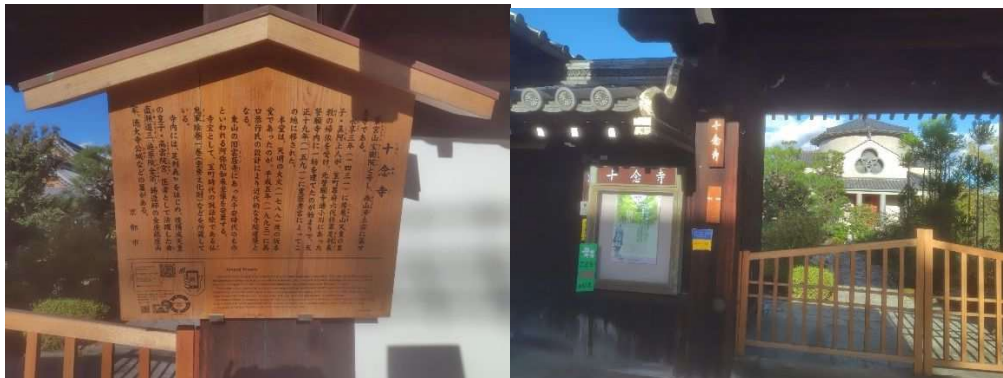




(碑文 要約)

天正 19 年 (1591) に豊臣秀吉の寺町整備により、現在の裏寺町に移転した。その後、天明 8 年 (1788) の天明の大火と元治元年 (1864) 「禁門の変」の際の火災により全焼、現在の本堂は昭和 7 年 (1932) に建立された

●京都市 上京区 十念寺 火災

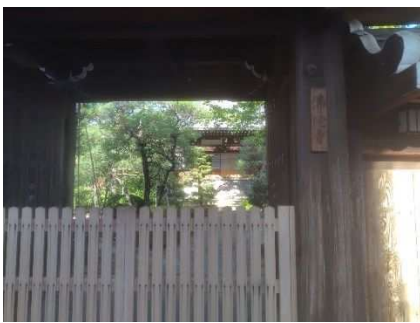


(碑文 原文)

華宮山宝樹院と号し、西山浄土宗に属する寺である。
永享三年（1431年）に後亀山天皇の皇子・真阿上人が、室町幕府
六代将軍足利義教（あしかがよしのり）の帰依を受け、元誓願寺
通小川にあった誓願寺内に一坊を建てたのが始まりで、天正十九
年（1591年）に豊臣秀吉によってこの地に移された。
本堂は、天明の大火（1788年）後の仮本堂であったのが、平成五
年（1993年）に高口恭行氏の設計により近代的な寺院建築とな
る。
東山の旧雲居寺にあった平安時代のものといわれる阿弥陀如来坐
像を安置する。
寺宝として、室町時代の説話絵である仏鬼軍絵巻一卷（重要文化
財）などを所蔵している。
寺内には、足利義政をはじめ、後陽成天皇の皇子・高雲院宮、医
者として活躍した曲直瀬道三、施薬院全宗、鑄造師の金座銀座両
家、徳大寺公城などの墓がある。

京都市

●京都市 上京区 佛陀寺 火災



(碑文 原文)

佛陀寺は、朱雀天皇と村上天皇を開基とする。天慶9年(946)に朱雀天皇が皇位を村上天皇に譲った後に父・醍醐天皇の菩提を弔うために日藏道賢上人を戒師として落飾し「仏陀寿」と号したのが始まり。その後、朱雀天皇が崩御した際に村上天皇が仙洞朱雀院を寺に改め仏陀寺とした。院号は大蔵院。宗派は西山浄土宗。佛陀寺は応仁の乱(1467)で焼失したが、文明8年(1476)に邦諫上人が土御門天皇の帰依を受けて、土御門西洞院に再興する。その後、天正年間(1573~1592)に豊臣秀吉が現在地に移転した。

なお、現在の堂宇は、万治4年(1661)と天明8年(1788)の大火の後に再建された。

●京都市 東山区 清水寺大日堂(宝性院境外塔頭真福寺) 東日本大震災



(碑文 背景)

清水寺大日堂はかつて平安時代に造仏され、真言宗の宗祖である弘法大師作の言われる大日如来坐像を安置していたが、今は宝蔵殿に収蔵されている。

大日堂には、平成 23 年(2011)の東日本大震災で倒された名勝・高田松原の松を使って造仏された大日如来坐像を安置している。

大日如来坐像は光背まで含めると像高約 3 メートル。大日如来坐像は陸前高田市の復興プロジェクトの一環として、津波で流出した松を仏像に再生しようと京都伝統工芸大学の仏像彫刻専攻の学生らが中心となって制作した。

この復興プロジェクトでは鎮魂と復興への祈りを多くの人々に刻んでもらおう

と復興イベント「1万人のひとノミひと削り」を展開し、ブータン国王夫妻を含む約1万1千人がノミを入れ作成された。

●京都市 中京区 悲田院遺址 鴨川水害



(碑文背景)

悲田院は、京極大路（寺町通）の東、姉小路の北に所在した南北 120 メートル、東西 150 メートルの寺院で福祉施設であった。常時、500 人ほどが収容されていたが、この地は鴨川に近かったこともあり、寛仁元年（1017）7月の鴨川の氾濫の時には、300 人以上が水に押し流される大惨事となった。

●木津川市 御霊神社 木津川大洪水



命、活津彦根命の三神
、木津川大洪水により
、古文書の大半も流出
これまで自然災害や戦



(碑文 要約)

御創建

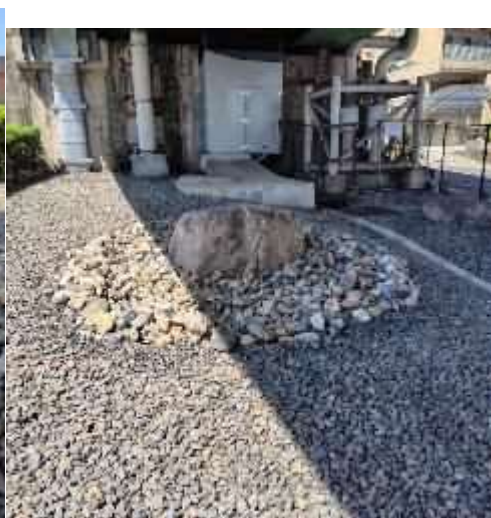
天平年間（729～749）、聖武天皇が光明皇后とともに全国に国分寺・国分尼寺を建てられた際、東大寺大仏殿建立の予材を以って此の地にも国分尼寺（誓願寺）が建立されたので、この寺の守り神として左大臣従三位葛城城王橘諸兄が造営使となって神殿が造営されました。

御祭神として木津郷黒山(現在の鹿背山)より多くに魂命・生国魂命の二神に遷座給わる時、大白玉が空中より天下りて光を四方に放ち、金剛童子に神移らせて「此の地を永く鎮護するために降臨する吾は稲倉魂命。」と名乗られたので、聖武天皇は直ちに稲倉魂命を合わされて祭祀され、白玉神社と名付けられました。

また別に現在の勸請記によると、清和天皇の御宇貞観18年(877)には天下泰平、悪鬼防護の神として天乃穗日命、天津彦根命、活津彦根命の三神を御勸請したともあります。

正徳2年(1712)8月、木津川大洪水により当神社も大きな被害を受けて、古文書の大半も流出したため詳細は不明ですが、これまで自然災害や戦乱、疫病など幾多の困難な時期があり、それとともに社会状況に応じた御神体が合祀されたものと思われます。

●京都市 伏見区 城外之庭 慶長伏見地震





(碑文 原文)

この城外之に置かれた石は、太閤秀吉の居城である伏見城内の庭の景石であったと伝えられている。

古から観月の景勝地として知られた「指月の丘」に築かれた豪壮な城から眺めた月は今も変わることなく凜とした美しさであったことであろう。

慶長伏見地震により、指月伏見城は甚大な被害をうけ天守閣は倒壊した。時代も平成から令和に移り変わり人の世の栄枯盛衰を眺めてきた二つの石がここに眠る。

物言わぬ石ではあるが、現在を生きる我々に防災減災とは何かを静かに語りかけてくれる。

●京都市 伏見区 太閤堤横島堤址 宇治川水害



(碑文 要約)

豊臣秀吉は文禄3年(1594)9月前田利家らに豊後橋から宇治橋まで宇治川の流
れを変えるように命じた。「駒井日記」翌年4月5日に早くも堤に桜3180本の
桜並木の存在が記載されていることから1年足らずで築堤が完成したことにな
る。同年には宇治川の氾濫により多くの桜が流された、とある。

木津川の水運が活発になるにつれ、加茂の船屋も主要な港津として発展をとげ、常念寺を中心に念佛の教えが南山城一帯に広がっていきました。

正徳2年(1712)8月、木津川の大洪水で流域の町や村のほとんどが壊滅的な被害を受けました。船屋でも大半の町家が流され、常念寺も水没して多くの什器・什宝類を失いました。このとき、加茂組大庄屋畑山重左衛門が里村の山際に寺地を寄進し、流失した佛像を引き上げて常念寺を再興しました。その後も当寺は幾多の変遷を経て今日に至っています。

●京都市 下京区、東山区 五条大橋 鴨川水害





(碑文 原文)

昭和十年六月の洪水に流出した六個を補充鑄造する 昭和二十七年五月
京都市

明治十年 橋之際除 本年重修 壊二珠因新 改修五條 擬實珠当 復舊形偶
造補之云 明治二七年一月 京都府

洛陽五条石橋正保二年乙酉十一月吉日 奉行 芦浦観音寺舜興 小川藤左衛門
尉正長

(碑文 背景)

現在の五条大橋の架設年は昭和 34 年(1959)で 3 径間連続鋼プレートガーター
橋、高欄は御影石、擬宝珠は江戸時代のもものが復元された。
橋長 67.2m、幅員 35m。擬宝珠は現在 16 基、欄干は花崗岩。
昭和 10 年(1935)の鴨川大洪水の時に安土・桃山時代、明治期のものなど 11 基
の擬宝珠が流出した。

●南丹市八木町 昭和 28 年大堰川水害



(碑文原文)

昭和二十八年九月二十四日・二十五日台風十三号大水害

昭和二十八年九月、台風は二十四日紀伊半島東岸に沿って北東方向に進み渥美湾中部を横断して長野県に入った。

この影響で丹波高地では、九月二十四日、二十五日両日で約三百ミリの雨が降った集中豪雨により、八木町では二十五日十時十五分サイレンを鳴らして大堰川水位が警戒水位に達したことを知らせた。

大堰川の水位は益々上昇、十六時三十分町民に避難命令を出す。
二十時十分、八木嶋地内で国道九号線が約七十メートルに亘り決壊し、二軒の家が流失した。二十二時二十分に八木町本町二丁目で水深が三メートルに達した。
八木町で死者三名、全壊三十六軒、流失九軒、半壊四百八十軒、床上浸水二百六十九軒、床下浸水百八十九軒、未曾有の大災害であった。
南廣瀬地区も市場、下条の一部を除き、大半の家が床上浸水の被害を受けた。衣類、食料等の救援物資を受けて助かったことを記憶している。

平成二十九年三月

南廣瀬自治会 南廣瀬喜楽会

●南丹市八木町 水天宮 水害





(碑文原文)

水天宮

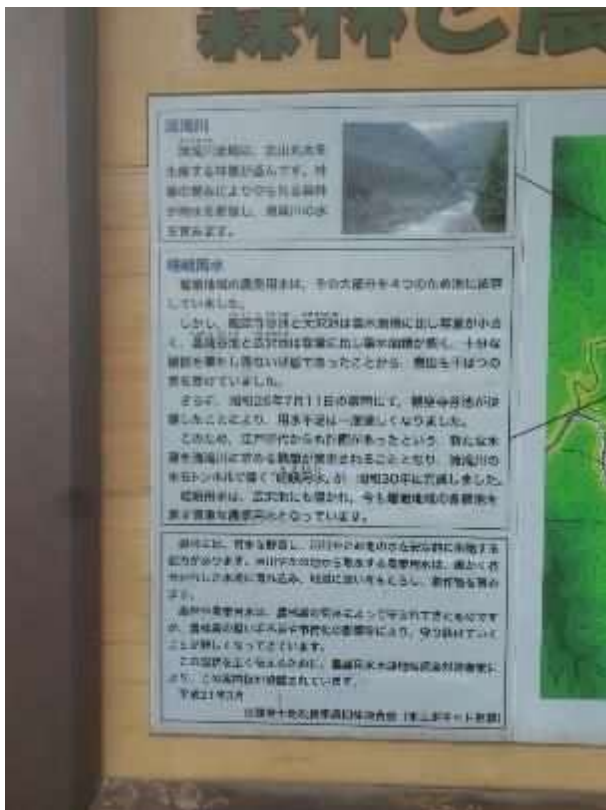
天明七年(一七八七年)に園部川と桂川が水天坂で合流することにより水勢も京大となり、水天坂が切断され多くの家屋が流出しました。文政十二年(一八二九年)の洪水で六十七箇所(九町八反)の田畑が被害を受けました。また、嘉永元年(一八四八年)の洪水では、家屋の流失・倒壊・半壊等多くの被害がでました。その他、田畑の流失、土砂の流入等で甚大な被害を受けました。

村人は水難を避けるため、水天坂の岩上に小祠を建立し水天宮を奉ったのです。それから洪水はあっても水天坂は切れたことがないと言われています。現在では毎年九月五日の前後の日曜日に祭礼が実施されています。

(丹波八木の歴史・鳥羽今昔物語より)

平成三十年三月 鳥羽自治会

●京都市 右京区 嵯峨用水 昭和26年水害





(碑文 原文)

嵯峨用水

嵯峨地域の農業用水は、その大部分を4つの溜池に依存していました。しかし、観空寺谷池と大沢池は集水面積に比べ容量が小さく、菖蒲谷池と広沢池は容量に比べ集水面積が狭く、十分な機能を果たし得ない状態であったことから、幾度も干ばつの害を受けていました。さらに、昭和26年7月11日の豪雨にて、観空寺谷池が決壊したことにより、用水不足は一層激しくなりました。このため、江戸時代からも計画があったという、新たな水源を清滝川に求める構想が実現されることになり、清滝川の水をトンネルで導く嵯峨用水が昭和30年に完成しました。嵯峨用水は、広沢池にも導かれ、今も嵯峨地域の各農地を潤す貴重な農業用水となっています。

●京都市 伏見区 御香宮鳥居 平成 10 年台風



(碑文 要約)

大手筋木鳥居旧基礎石について

江戸時代・萬治二年(1659)紀州徳川頼宣は当神社境内入口の大手筋に石鳥居を奉納した。

その鳥居は寛文年間の大地震により倒壊、その後数度の建替を経て、明和四年(1767)に現今の鳥居が奉納された。

数回の修理後、平成10年9月の台風により傾斜したのを契機に解体修理を行った。

今回修理にあたり基礎を鉄筋コンクリートにて補強するのに際して旧来の柱根石を交換したが、柱根を支えていた石底根石は再利用している。

ここに十数トンの重さを支えていた基礎石の状況を図示して、往時の土木技術の確かさを感じとっていただければ幸いである。

平成11年9月吉日

●京都市 伏見区 伏見港等 平成 25 年台風 18 号



◆ 平成 25 年 (2013) 台風 18 号の爪痕 (中書島橋 高架下)



コーソング 留付付近



中書島橋 高架下



中書島橋 高架下



宮つる橋 高架下

撮影：19年 11月
京都府建設局管内部

◆ 平成 25 年 (2013) 台風 18 号の爪痕 (伏見港公園付近)



宇治川 西生門



三好治水公園付近



西生門 御所通 北方側



東生門川 三好橋

撮影：19年 11月
京都府建設局管内部

(碑文 要約)

平成 25 年 (2013) 台風 18 号の爪痕

「長建寺付近」、「中書島橋高架下」、「伏見港公園付近」

※銭湯の入り口壁に掲示されているもの